

石クリ通信

12月号

院長 石川 悟

「けへ、けけ、しら」

最近では医療の現場も電子化が進み、「電子カルテ」に変わって来ています。紙の場合、医者の文字は一般に読みにくくて、略号が多く、スタンプが見てもカルテに何が書いてあるのかわからない、というのが今までの常識でした。

電子化するにあたって、医師の強い抵抗は「入力に時間がかかって、診療時間が大幅に増えて、ますます患者を待たせる。」というものでした。確かにキー入力するのが遅ければ、手書きよりは時間がかかりました。また入力してもうまく漢字が出てこなければライイラがのります。しかし、慣れてしまえば、紹介状など患者名や住所、年齢、診断名などが自動的に記載される。また日本語入力の辞書を充実させれば、記載は非常に速くなります。

当院では「けへ」と入力すると「経過中変化なし」、「けけ」で「検査結果」、「しら」で「症状あれば来院」と出ます。また「bph」と入れると「前立腺肥大症」が出ます。(BPH=Benign Prostatic Hypertrophy の略)ただしこのような略式の単語登録に懲りずぎて、「ぜー前立腺」とすると、「かぜ」とキー入力すると「可前立腺」とか「ぜび」と入れると「前立腺脾」と出て、消すのがめんどろになりまます。

当院で使っている日本語変換ソフトはWindowsに最初から入っているIMEというもので、ATOKなど有料で優秀なソフトに比べると、少しおバカさんですが、それなりに楽しんで付き合っています。

心と音楽

事務長 石川 都

クリニックでは毎月院内コンサートを行っています。実は音楽と医療とは深い結びつきがあります。五感の中でも聴覚は人間に最も早くから最後まであり、胎児は母体の心音で安らぎ、臨終の際も耳は最後まで聞こえていると言われます。音楽も元来は人間の最も原始的な生命エネルギーの表出で、人間に言葉以前から備わる重要なコミュニケーション手段でした。古代エジプトでは音楽は「魂の薬」を意味し、日本でも「音霊(おとだま)」と言います。音楽は昔から宗教や医療とも関係し心の深い部分で人を癒す力を持っています。最近では心を癒し不安や緊張も軽減する音楽の力が見直され、病院や施設での音楽療法も普及して来りました。重い認知症の人でも昔好きだった歌は歌えると言われます。宮澤賢治の「セロ弾きのゴーシュ」では、病氣の子ネズミがチェロの中で癒されました。皆で音楽を共に楽しむことで心と心が響き合い、多くの心のメッセージを取り交わされます。

今日は十五日午後一時半から、石川ファミリィによるクリスマスコンサートです。どうぞお楽しみに。

我が家によつと

看護助手 柴田 さち子

三年目でやつとブルーベリーの実がなった。毎年友達からブルーベリーを頂き、ブルーベリー酒を作っていた。一週間くらい経つと、ワイン色になり、一カ月くらいで真っ赤なブルーベリー酒が出来た。氷を5〜6個入れ、ソーダー水割つたら最高。二年前に頂いた時は「今回はブルーベリージャムに挑戦！」と気合を入れて、ガス台の前でジャム作りを挑んだ。弱火でゆつくり、時々ヘラでかき回しながら、三〇〜四〇分間。すると綺麗な紫色になり、「よしよし」と火を止めた。ヘラに少々つけて指で触ると、「アツイ！」あわてて冷やしたが、見ると火膨れしていたのは、その時の熱くて痛い思い出だ。

今年はやけどに注意してジャムを作り、パンに挟んだりヨーグルトに入れたりして食べた。「おいしい。」大満足です。

私と歌

看護師 高山 早苗

私は小さい頃から歌が好きで、特に歌謡曲が大好きで、よく家や学校で、また登下校時に当時の流行歌を歌っていた。私が通った小学校は、年末に年忘れ子ども大会というものがあり、各クラスの子どもたちが考えて出し物をするものだった。文部省唱歌を合唱して踊り、校長先生や他の先生方に大うけだった。また高校の時、歌いながら昇降口で靴を履き替えていると「いつも歌っているね」と声をかけられたことがある。顔をあげると「一つ上の先輩だった」が、残念ながら我が校は女子高であった。現在私は主人と二人暮らし。大好きな吉田拓郎の歌をいつも鼻歌で歌っている主人をみると似た者夫婦だなあと最近思う。

薬剤師 石川 恵

すっかり冬の装いとなり日もめつくり短くなりました。17時前から既に暗いとなんだか切なくなりまますね。雑貨屋さんもハロウィンモードからクリスマス仕立てに早変わり。冬は寒い分、華やかな行事が多く楽しくもあります。

そんなこんなで今回は、ハロウィンとクリスマスに關わる映画を一本ご紹介。ドイツ・ニールランドにも時たま現れるのでこのガイコツ君を目にしたことがある人もいます。映画「Nightmare Before Christmas」のジャック君です。監督は「チャリティーとチョコレート工場」Alice in Wonderland 等でお馴染みティム・バートン監督。内容としては、いかに皆を驚かせるかを楽しみに毎年開かれていくハロウィンタウンの「ハロウィン」。しかしそのマンスリ化に悩むパンク・キング、ジャックがある日「クリスマスタウン」に迷い込みその華やかさに感動し・・・というストーリーなのですが、「ストップモーション・アニメーション」という人形を少しずつ動かして撮る技法を使い制作されたこの映画は独特の世界観を醸し出し、またミュージカル仕立てのこの作品は音楽もまた魅力の一つでもあります。ハロウィンやクリスマスが好きな方はこの雰囲気ハマること間違いなし☆興味がある方は是非一度ご覧ください。



夢のお話

事務 森 絵里子

今日は将来の夢ではなく、睡眠時にみる夢について書こうと思います。

私はほとんど毎日夢をみます。「今日はどんな夢をみようかな」と想像しながら眠ると、稀にその通りの夢をみる事ができて、そんな日は得した気分分一日を迎える事ができます。

そもそも夢とは、脳は覚醒しているのに体が休んでいる「レム睡眠」状態の時にみるそうです。レム睡眠状態の時には必ずといっていいほど夢をみているので、「今日は夢をみなかった」という日はなく、ただ覚えていないだけだそうです。

私はよく、アイドル歌手なのに歌って踊れない、魔法使いなのに魔法が使えない、といったもどかしい夢をみます。みなさんはいつものどんな夢をみていますか？調べてみると面白いかもしれませんね。

サイクリング

看護師 澤田 彰子

休日にと夫と長男と三人で那珂川沿いをサイクリングに行きました。那珂川は久慈川と違って、サイクリングコースが整備されています。車通りの少ない道を選んで走ったため、途中行き止まりで引き返したり、震災の影響でデポコビの所もありました。が、日立とは違って平坦な道で走りやすかったです。天気も良かったので、途中でお弁当を食べたりしながら、那珂川河口から水戸市の6号国道まで往復四時間のサイクリングでした。運動不足だった私には、筋肉痛にもならない程度のいい運動になりました。

石クリ通信制作時のさげび

事務 石川 香

前回私が多くスペースを取り過ぎたせいで、今回みんな容赦ない・・・「原稿を短めに」と呼びかけていたのは、実は自分が書きたかったからか、という皆の心の声がかえってはいいたが、それがあからさまになった・・・今回は皆の原稿がいつもより少しづつ長く、私には五七五の俳句を書くスペースも与えられませんでした。悲しい。字数が最大だった院長と事務長に何とか懇願して、スペースを獲得できましたが、見返すと、恵さんの記事も前置きがダラダラ。勝手に削ってしまおうか、しかし恵さんの記事に根強いファンが一番多いから、ダメだ・・・。

最近石クリ通信はとも評判が良いのです。ファンも多く獲得し始め、発行者としては大変有り難いことです。制作の一番の苦勞は「枠にはめる」こと。何で新聞は毎日発行なのにあんなにうまく枠にはまってるんだろう。コツを知ってたら教えて下さい。